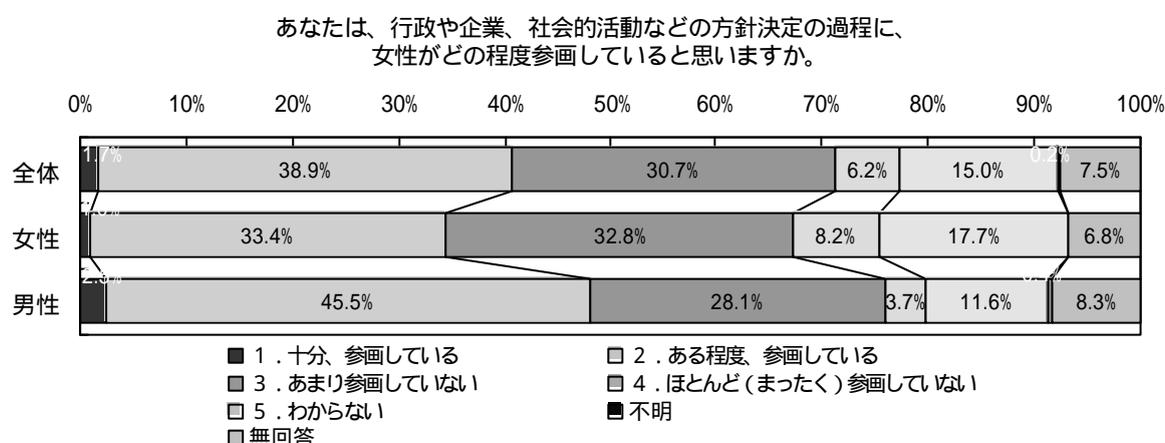


7 女性の社会参画と町の施策について

このセクションでは、社会的活動や政策方針決定過程への参画の現状と意向を把握し、男女共同参画社会実現に向けた方策を探るために、またそのための町の施策に対する要望を把握するために、男女共同参画社会に関する考え（問 21 - 23）や男女共同参画社会に向けた玉村町の施策についての見解（問 24）をたずねています。

< 分 析 >

7 - 1 女性の政策方針決定過程への参画（問 21）

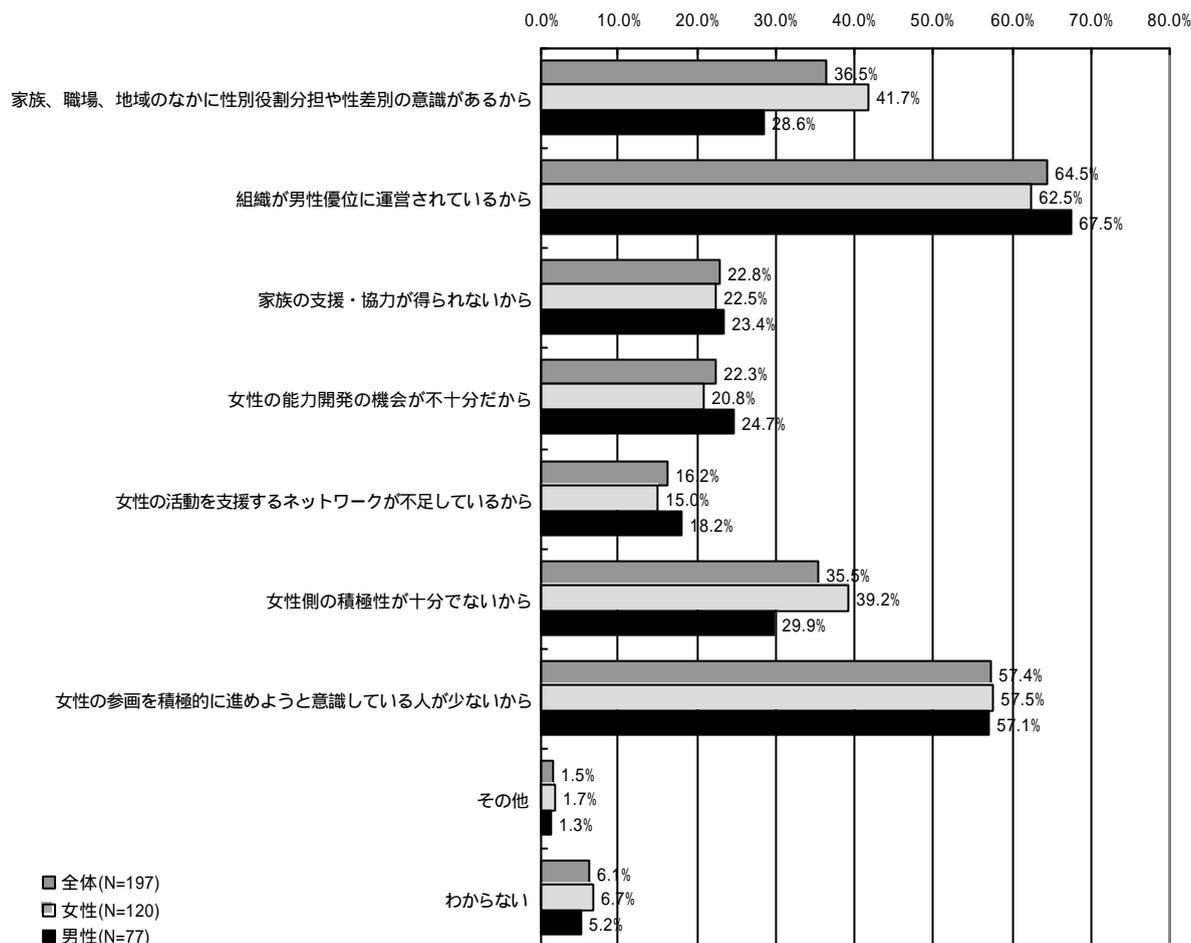


方針決定に女性がどの程度参画していると思うかについての見解は、「ある程度、参画している」が全体の38.9%を占めており、次いで「あまり参画していない」が30.7%とほぼこの2つの見解が全体の約7割を占めていることがわかります。

男女別では、「ある程度、参画している」と感じている男性が45.5%であったのに対し、女性は33.4%にとどまっており、「あまり参画していない」では男性28.1%に対し、女性32.8%となっています。すなわち、女性の方が行政や企業、社会的活動などの方針決定の過程に女性の参画が十分ではないと感じているようです。

7 - 2 女性が政策方針決定過程に参加していない理由（問 22）

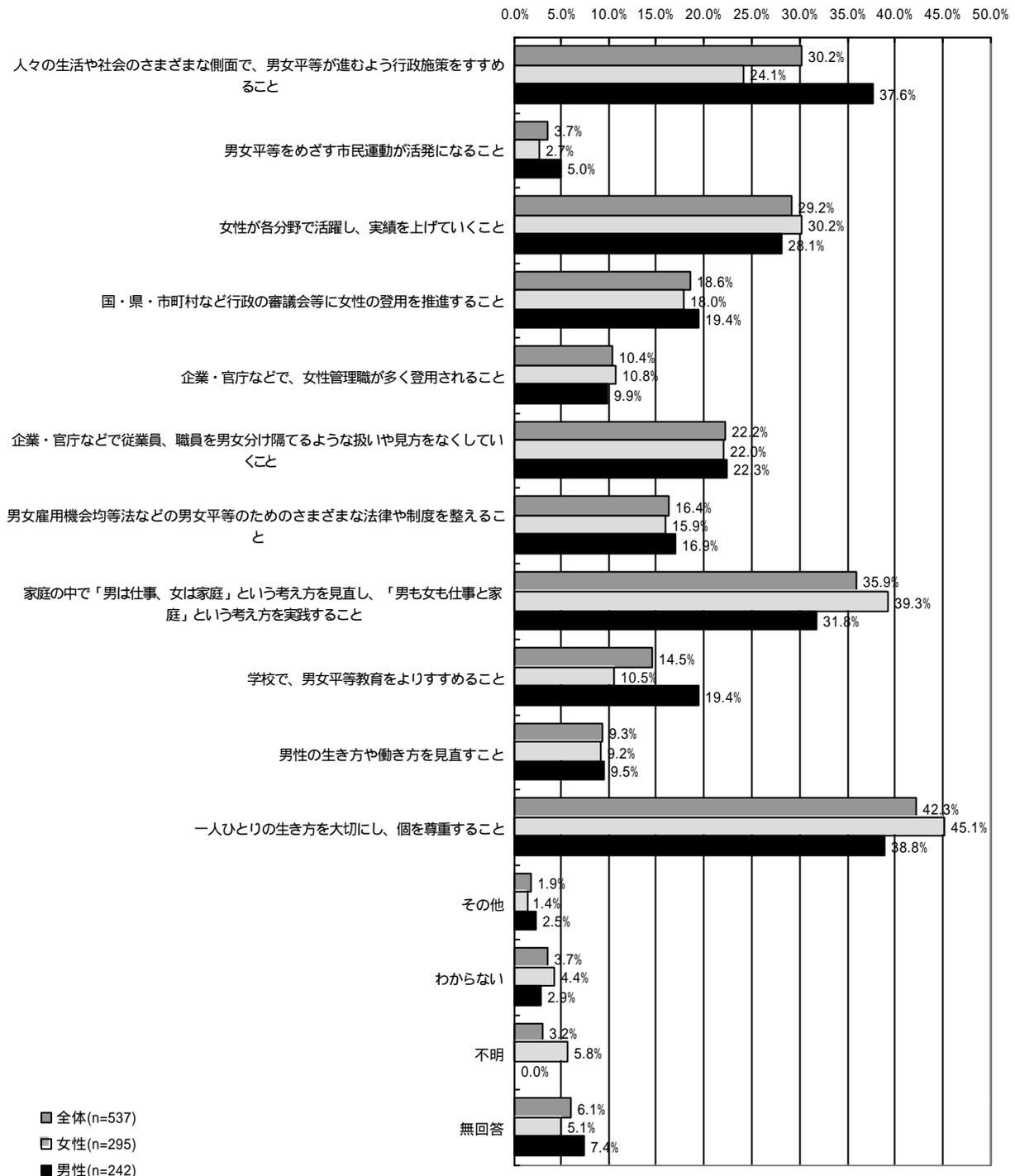
【問21で、3・4と回答した方におたずねします】
女性が方針決定の過程に参加していない理由は何だと思えますか。（複数回答）



ここでは【問 21】で「あまり参加していない」「ほとんど（まったく）参加していない」と感じている回答者に「女性が方針決定の過程に参加していない理由」についての見解をたずねたところ、全体として「組織が男性優位に運営されているから（64.5%）」、「女性の参画を積極的に進めよう意識している人が少ないから（57.4%）」が上位を占めています。またその次に高かった「家族、職場、地域のなかに性別役割分担や性差別の意識があるから（36.5%）」については、男女別にみると女性が41.7%であったのに対し、男性は28.6%にとどまっていることがわかります。このことから女性は、女性が方針決定過程へ参加していない要因として《身近にある固定的な性別役割観》があることを男性よりも強く感じているようです。

7 - 3 各分野での女性の参画を進めるために重要なこと（問 23）

男女共同参画社会を築く上で大切なこと（3つまでの複数回答）



次に男女共同参画を築くにはどのようなことが大切かについてたずねたところ、全体として「一人ひとりの生き方を大切にし、個を尊重すること（42.3%）」、「男も女も仕事と家庭」という考え方を実践すること（35.9%）」に続いて「人々の生活や社会のさまざまな側面で、男女平等が進むよう行政施策をすすめること（30.2%）」の割合が高いことがわかりました。

【男女共同参画社会を築くうえで大切なこと(3つまで複数回答)(性・年代別)】 (%)

	N	人々の生活や社会のさまざまな側面で、男女平等が進むよう行政施策をすすめること	男女平等をめぐらず市民運動が活発になること	女性が各分野で活躍し、実績を上げていくこと	国・県・市町村など行政の審議会等に女性の登用を推進すること	企業・官庁などで、女性管理職が多く登用されること	企業・官庁などで従業員、職員を男女分け隔てるような扱いや見方をなくしていくこと	男女雇用機会均等法などの男女平等のためのさまざまな法律や制度を整えること	家庭の中で「男は仕事、女は家庭」という考え方を直し、「男も女も仕事と家庭」という考え方を実践すること	学校で、男女平等教育をよりすすめること	男性の生き方や働き方を見直すこと	一人ひとりの生き方を大切にし、個を尊重すること	その他	わからない	不明	無回答
全体	537	30.2	3.7	29.2	18.6	10.4	22.2	16.4	35.9	14.5	9.3	42.3	1.9	3.7	3.2	6.1
女性	295	24.1	2.7	30.2	18.0	10.8	22.0	15.9	39.3	10.5	9.2	45.1	1.4	4.4	5.8	5.1
20代	36	17.1	5.7	28.6	14.3	17.1	31.4	14.3	54.3	0.0	17.1	54.3	0.0	2.9	8.6	0.0
30代	44	13.6	0.0	18.2	15.9	13.6	34.1	15.9	34.1	11.4	6.8	38.6	4.5	4.5	9.1	0.0
40代	55	23.6	0.0	47.3	20.0	14.5	20.0	18.2	41.8	9.1	7.3	47.3	0.0	3.6	3.6	1.8
50代	50	32.0	0.0	34.0	20.0	8.0	20.0	20.0	40.0	10.0	12.0	48.0	2.0	0.0	2.0	8.0
60代	58	27.6	5.2	27.6	25.9	10.3	17.2	22.4	36.2	12.1	6.9	43.1	0.0	5.2	5.2	5.2
70代	52	26.9	5.8	23.1	9.6	3.8	15.4	3.8	34.6	17.3	7.7	42.3	1.9	9.6	7.7	13.5
男性	242	37.6	5.0	28.1	19.4	9.9	22.3	16.9	31.8	19.4	9.5	38.8	2.5	2.9	0.0	7.4
20代	30	40.0	6.7	16.7	16.7	16.7	20.0	13.3	26.7	26.7	10.0	43.3	6.7	6.7	0.0	0.0
30代	30	26.7	0.0	30.0	20.0	10.0	16.7	10.0	23.3	20.0	6.7	73.3	3.3	3.3	0.0	0.0
40代	39	46.2	7.7	17.9	20.5	15.4	25.6	20.5	35.9	25.6	12.8	25.6	2.6	0.0	0.0	2.6
50代	44	38.6	2.3	20.5	15.9	2.3	31.8	18.2	34.1	18.2	13.6	40.9	2.3	2.3	0.0	9.1
60代	45	44.4	4.4	42.2	20.0	13.3	26.7	20.0	33.3	17.8	6.7	37.8	0.0	2.2	0.0	2.2
70代	54	29.6	7.4	35.2	22.2	5.6	13.0	16.7	33.3	13.0	7.4	25.9	1.9	3.7	0.0	22.2

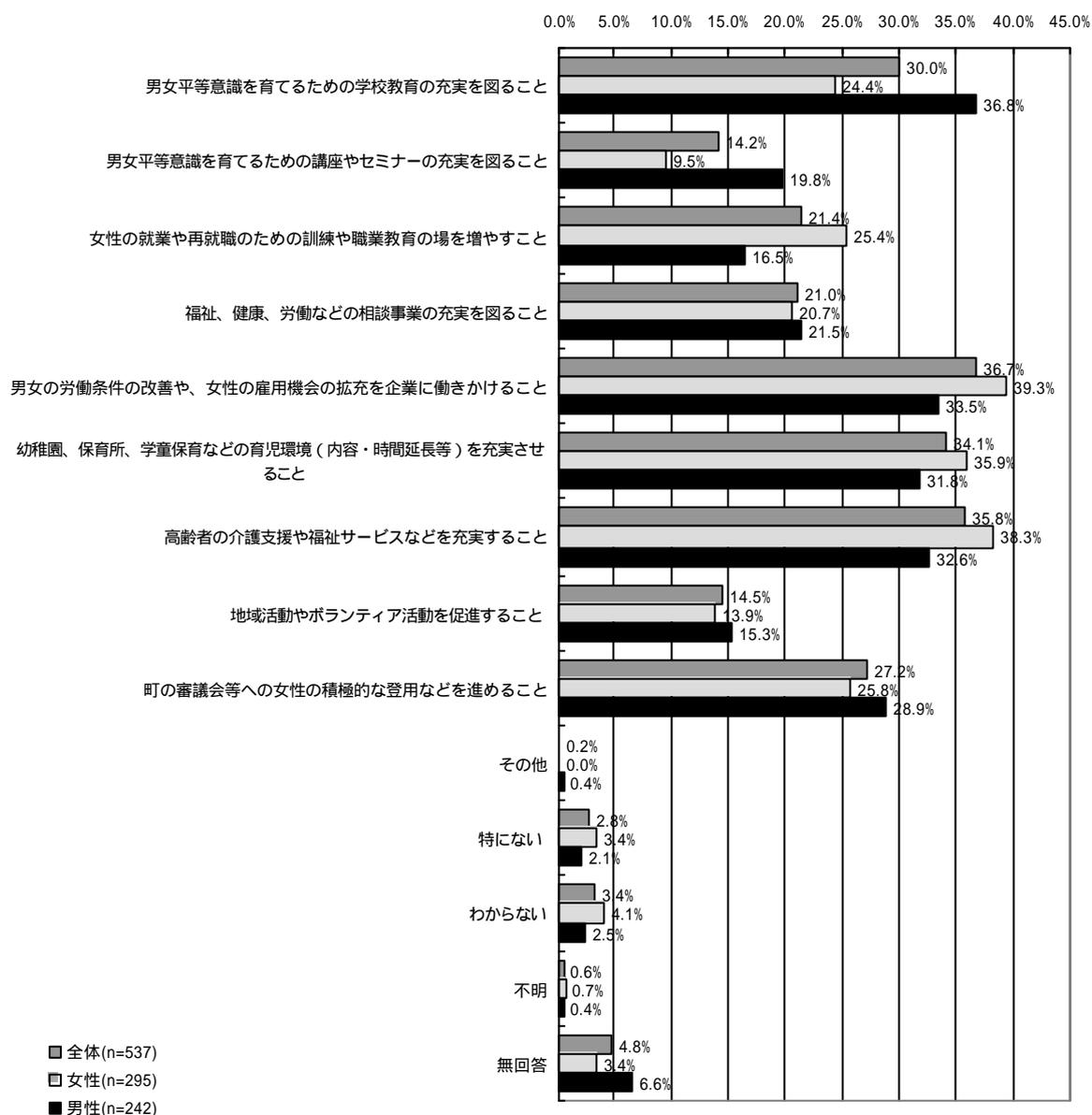
これらを男女別に比較すると、「一人ひとりの生き方を大切にし」において女性45.1%に対し、男性は38.8%にとどまっており、「男も女も仕事と家庭」という考え方の実践」においても女性39.3%に対し、男性は31.8%でありました。一方、「男女平等が進むよう行政施策をすすめること」に関しては、女性が24.1%にとどまっているのに対し、男性は37.6%となっています。

次に年代別で比較していきます。女性の場合、「一人ひとりの生き方」と「男も女も仕事と家庭」という考え方において20代と30代に大きな開きがあります。すなわち、「一人ひとりの生き方」において20代は54.3%であったのに対し、30代は38.6%でした。また「男も女も仕事と家庭」という考え方においては20代が54.3%であったのに対し、30代は34.1%にとどまっています。男性の場合も「一人ひとりの生き方」に関しては、20代と30代で大きな差があります。しかしこの差は女性の場合とは異なり、20代が43.3%であったのに対し30代は73.3%と、30代の方が20代よりもその重要性を高く認めていることがわかりました。

それぞれの年代の中で「一人ひとりの生き方」に対する30代男性の73.3%という割合は、最も高かったのに対し、「男も女も仕事と家庭」という考え方」に関して30代男性の支持は最も低いことがわかりました(23.3%)。また、「行政施策の推進」に対しては、男女とも30代が最も低い結果でした(女性13.6% 男性26.7%)。

7 - 4 男女共同参画社会形成のために町に求められる施策（問 24）

男女共同参画社会に向けて町に求められる施策(3つまでの複数回答)



ここでは玉村町が男女共同参画社会を形成していくにあたり、今後どのようなことに力を注いでいって欲しいのかに関してたずねています。最も関心の高かった項目は「男女の労働条件の改善や女性の雇用機会の拡充を企業に働きかけること（36.7%）」ですが、「高齢者の介護支援や福祉サービスなどを充実すること（35.8%）」、「幼稚園、保育所、学童保育などの育児環境（内容・時間延長等）を充実させること（34.1%）」、「男女平等意識を育てるための学校教育の充実を図ること（30.0%）」といずれも3割を越す高い関心であることがわかります。

これら3割を超す項目について男女別に比較すると、女性は上位3項目（「男女の労働条件の改善や雇用機会の拡充」、「介護支援や福祉サービスの充実」、「育児環境の充実」）のいずれにおいて、男性よりも高い関心を示しています。一方「学校教育の充実」に関しては女性が24.4%であったのに対し、男性は36.8%と女性よりも高い傾向であることがわかりました。

年代別で見ていくと、女性の場合、対象となる年代と関心の内容が比較的一致しながら、その割合が変化しています。つまり「男女の労働条件の改善や雇用機会の拡充」と「育児環境の充実」に関しては20代、30代の割合が高く、年代を経るにしたがって低くなる傾向にあり、「介護支援や福祉サービスの充実」においては、年代が高くなるにしたがい関心も高くなるという傾向があるようです。

男性の場合、「育児環境の充実」においては、20代、30代の割合が高く、年代を経るにしたがいその割合が低くなり、女性と同じような傾向がみられます。しかし、「男女の労働条件の改善や雇用機会の拡充」と「介護支援や福祉サービスの充実」においては女性のように対象となる年代と関心の内容との一致はそれほど顕著には見られませんでした。さらに、「男女の労働条件の改善や雇用機会の拡充」において20代（56.7%）と30代（26.7%）で大きな差が認められました。

【共同参画社会へ向けて町に求められる施策(性・年代別)】(3つまで複数回答) (%)

	n	学校男女 教育等 意識を 育てる ための 充実を 図ること	講座や セミナー の充実を 図ること	男女 職業 教育の 場の増 や	女性の 就業や 再就職 のため の増や	福祉、 健康、 労働な どの相 談	男女の 労働条 件の改 善や、 女性 の就業 機会の 拡充を 企業	幼稚園、 保育所、 学童保 育など の育児 環境へ 内容・ 時間延 長等 を充実 させる こと	高齢者 などの 介護支 援や福 祉とサ イ	地域活 動やボ ランティア 活動	町内の 審議会 などの 女性の 積極的 な参加 を進め ること	その他	特にな い	わから ない	不明	無回 答
全体	537	30.0	14.2	21.4	21.0	36.7	34.1	35.8	14.5	27.2	0.2	2.8	3.4	0.6	4.8	
女性	295	24.4	9.5	25.4	20.7	39.3	35.9	38.3	13.9	25.8	0.0	3.4	4.1	0.7	3.4	
20代	36	22.2	2.8	30.6	13.9	58.3	63.9	27.8	2.8	13.9	0.0	2.8	0.0	2.8	0.0	
30代	44	22.7	4.5	27.3	13.6	52.3	59.1	25.0	6.8	13.6	0.0	2.3	4.5	2.3	0.0	
40代	55	23.6	10.9	29.1	25.5	45.5	32.7	32.7	5.5	38.2	0.0	3.6	1.8	0.0	0.0	
50代	50	30.0	16.0	22.0	28.0	34.0	32.0	50.0	16.0	20.0	0.0	2.0	4.0	0.0	4.0	
60代	58	24.1	6.9	24.1	12.1	36.2	31.0	39.7	19.0	36.2	0.0	5.2	5.2	0.0	6.9	
70代	52	23.1	13.5	21.2	28.8	17.3	9.6	50.0	28.8	25.0	0.0	3.8	7.7	0.0	7.7	
男性	242	36.8	19.8	16.5	21.5	33.5	31.8	32.6	15.3	28.9	0.4	2.1	2.5	0.4	6.6	
20代	30	36.7	20.0	13.3	16.7	56.7	53.3	20.0	20.0	13.3	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
30代	30	23.3	16.7	13.3	40.0	26.7	50.0	20.0	3.3	26.7	0.0	0.0	3.3	0.0	3.3	
40代	39	41.0	23.1	23.1	15.4	33.3	23.1	35.9	15.4	33.3	0.0	2.6	5.1	0.0	0.0	
50代	44	40.9	20.5	25.0	15.9	31.8	31.8	29.5	18.2	25.0	0.0	4.5	0.0	0.0	11.4	
60代	45	33.3	15.6	15.6	24.4	33.3	33.3	48.9	17.8	31.1	0.0	0.0	2.2	2.2	2.2	
70代	54	40.7	22.2	9.3	20.4	25.9	14.8	33.3	14.8	37.0	0.0	3.7	3.7	0.0	16.7	

<まとめ>

男女共同参画社会に対する見解において、女性と男性における関心の違いが顕著でありました。女性は「男性優位社会」の中で男女共同参画社会を実現するためには、固定的な性別役割観にとらわれない 意識の変革 の必要性を重視しているのに対し、男性はどちらかというと「行政施策の推進」に高い関心があります。しかしいずれにしても 意識の変革 に対する視点とそれをバックアップする「行政施策の推進」との両輪がともに高まっていく必要があると思われま

さらに30代の男性は「一人ひとりの生き方を大切にする(=個の尊重)」ことを高く支持している一方で、「男も女も仕事と家庭という考え方」、女性の労働条件の改善とそのため行政施策の推進に対しては低い関心であることがわかりました。つまり、女性が直面せざるを得ない諸問題を改善・整備していくことと女性の「個の尊重」は結びついていないと思われます。

「個を尊重する」ということは、性別による力関係や格差を見直す男女共同参画社会づくりの取組にとって重要な視点といえます。しかし一方で、性別による力関係や格差(家庭や地域等で「自然化されている」性別役割や労働条件の格差など)を問題視しないまま「個の尊重」を重視していく姿勢は、ややもすると男女共同参画社会づくりがめざす方向とは逆の方向へむかってしまう可能性もあります。今日のような女性の社会進出や法制度の確立により、「女性と男性はすでに平等である」と認識されることもあります。性別による不平等な力関係がいまだに存在し見えにくくなっていることも確かです。このように「個の尊重」という理念には、男女共同参画社会をめざす取組に逆行する意味が含まれることもあります。誰の、何のための「個の尊重」がうたわれているのか、私たちはその言葉の背景や文脈を十分汲み取っていく必要があると思われます。

< 参 考 >

「個の尊重」には「個人の自由を抑圧すること」に対する否定意識が根底にあります。「個の尊重」が「男も女も関係なく、一人ひとりの生き方を尊重する」といった文脈で主張されるような場合には、男女共同参画社会づくりの取組と一致します。しかし一方で、「個人の尊重(個人の自由)」は、強者の立場にいる人たちによって都合よく解釈・主張される場合もあります。例えば、弱者 という状況や立場に置かれた人たちから、強者 という立場にいる人たちに対し、力関係や格差を認識し、是正していこうと啓発をしたとしても、強者の側から「そのような力関係や格差を認識する/しないは個人の自由だ」と主張される可能性もあるということです。<まとめ>で指摘した「男女共同参画社会づくりがめざす方向とは逆の方向」とは、このような意味での「個の尊重」が主張される時に起こると考えられます。